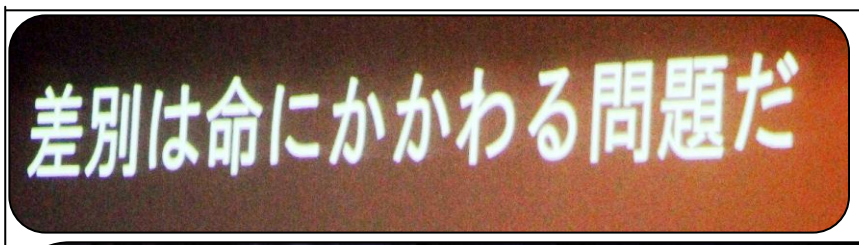
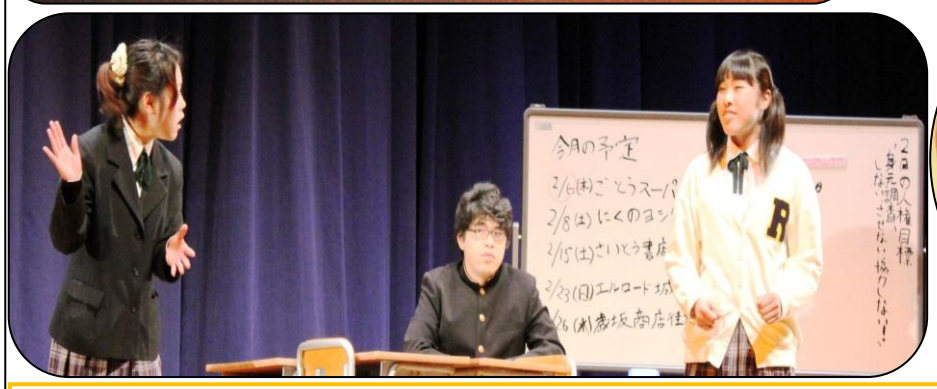


差別をなくする市民の集い
～ハート FULL 新居浜～



瀬戸会館だより
平成２６年３月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町7－30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
TEL０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

２月の「人権のつどい日」にあたる 11 日、市民文化センターで標記の集いが行われた。第一部は「平和と人権を学んで」のテーマで、市内 5 高校フィールドワークの成果を新居浜西高等学校の人権委員会の皆さんが報告した。新居浜市では毎年夏に市内の県立高校の人権委員が参加してフィールドワークを実施しており、今年度は福山市の「人権平和資料館」と「ホロコースト記念館」を訪れた。報告の中で福山空襲、水爆実験による第 5 福竜丸事件などを取り上げ、部落差別については「『差別をする・される人たちだけの問題』ではありません」と述べた。またナチスによるユダヤ人大虐殺は「ヨーロッパ諸国が見て見ぬふりをしたことがユダヤ人への差別を助長した」とも報告した。

第二部の人権啓発劇『私を変えるものは・・・』は脚本・演出　山内貴志さん。あらすじは、女子高生の大西知世が昔あこがれていた従兄の桃矢が結婚することから始まる。家族こぞって喜びを語り合うが、その桃矢の結婚相手が被差別部落出身であることがわかると、知世の父親の態度が変わる。知世はこのことを学校の人権委員会の友だちや先生に・・・・・と場面は展開する。舞台では、重く真剣な言葉のやりとりのなかにコミカルな動きやセリフも見られ、会場はいつの間にかドラマに引き込まれていった。

3月公演
回転木馬
おはなし会

3月5日予定
10:30～11:30
瀬戸児童館

3月の主な行事予定

5･19日（水）－移動図書館

11日（火）－
人権のつどい日
講演「障がい者問題（虐待）に関すること」
講師　伊達　忠幸（地域福祉課）

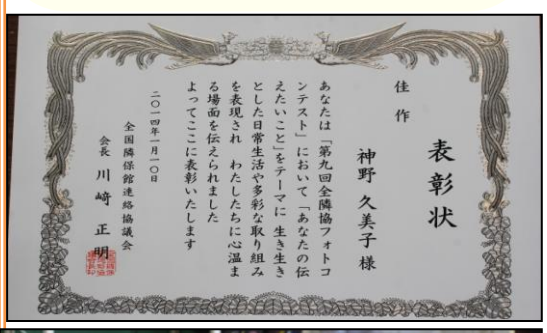
月2回（木）－ 絵本・紙芝居　お話し会
泉川小学校放課後児童クラブ

3月は
20日（木）
19:30～

み･ご･と『佳作入賞』
～第 9 回全隣協フォトコンテスト～

全国からの応募数は 443 作品。当館の神野指導員の作品が最終審査で残った 10 作品中、『佳作』に選ばれました。

下の写真『まなざし』は絵本の物語の中に吸い込まれていく子どもたちの表情をとらえたものです。



表彰状

佳作
神野　久美子　様

あなたは「第九回全隣協フォトコンテスト」において「あなたの伝えたいこと」をテーマに生き生きとした日常生活や多彩な取り組みを表現され　わたしたちに心温まる場面を伝えられました
よってここに表彰いたします

二〇一四年一月一〇日
全国隣保館連絡協議会
会長　川崎　正明

消防訓練　児童館と合同で

２月１３日（木）の午後、瀬戸会館の調理室から出火して隣接する児童館に延焼のおそれありとの想定で訓練を実施。児童館からは先生方の誘導で「つくしＢクラブ」２１人とその保護者、瀬戸会館からはサークル活動中だった紙バンド教室や囲碁教室の皆さんが駐車場に集合し、安全を点検、確認。

この日は非常に寒いことから、瀬戸会館の１階会議室に入り南消防署の署員さんから講話を聴いた。署員さんは子どもたちに「避難するとき大切なことがあります。それは『お、は、し』です。おはしの『お』は？」とここまで言うと子どもたちが一斉に「おさない！」と大声で答えた。「知っとんじゃねぇ。『は』は？」との問いに「走らない」、そして「しゃべらない」と元気な声で続く。また、お母さん方向けには台所での火や油の取扱いについて注意を促した。続いて啓発ビデオ『地震だ　その時どうする』を視聴。そのあと子どもたちは外に出て、赤い消防車の前で署員さんと一緒にカメラのフラッシュを浴びた。

人権あらかると

かけがえのない宝物

1931 年「満州事変」が起き、日本は 15 年に及ぶアジア太平戦争に突入した。それまで軍縮を訴えていたマスコミは「事変」を機になだれを打って軍部に迎合、侵略戦争の旗振り役に転じた。しかし菊竹六鼓（編集局長兼主筆）は孤立しながらも、福岡日日新聞の社説でファシズム台頭に強い警鐘を鳴らした。菊竹の警告は的中した。翌年 5 月 15 日、軍人らが首相官邸に侵入。「話せばわかる」と説得する犬養毅首相に「問答無用」と凶弾を浴びせた。

菊竹は「首相凶手に斃る」「敢えて国民の覚悟を促す」「憲政かファシズムか」など軍部ファシズムに反対する社説を次々と発表した。その内容は「不届きな軍人が政治改革を口実に首相を虐殺したのは、国家を壊滅させることが狙いだ」「他の新聞の論調は、何者かを恐れ縮み上がって自分の意見を率直に言えないようだ。だが、こういう場合に言うべきことを言わず、すべきことをしないのは決して新聞記者の名誉ではない」などというものだ。

これに対して軍人や右翼が脅迫を繰り返したが、菊竹は「新聞社はつぶしてもよいが、国家をつぶしてはならない」と屈せず、社運を賭け断固として主張を貫き通した。

一方、全国水平社は「差別の伏魔殿」である軍隊内の差別撤廃などの反軍闘争を展開。そのためリーダーの松本治一郎らは「福岡連隊爆破事件」のでっち上げで投獄されたが、高松差別裁判糾弾闘争の全国大行進などで反撃した。

菊竹の長男は、「そのころ松本治一郎さんが弁護士を通じて『軍が危害を加えようとするなら、いつでも応援する』といってきてくれたのが、ほんとうにうれしかった」という。人権や平和は、戦前の水平社や菊竹らの苦闘によって勝ち取られた宝だ。かけがえのないその宝を、決して奪わせてはならない。

中川健一『メディアを人権からよむ』（解放出版社）より

寒風に負けず　　校内マラソン大会

2 月 12 日（水）、南に見える山々がふもとまで雪におおわれたこの日、泉川小学校では校内マラソン大会が行われた。学年別に順次実施されたが、怪我がないように先生の指導で先ずは入念な準備体操。そして隊列を組んで並び、スタートまでの緊張のあと、先生の合図で一斉に駆け出した。

コースは学校の周囲をぐるりと一周するが、南側の道路は自動車の通行も多いため歩道を走る。安全確保のためコースのそこかしこに人が配置され、なかには背中に「泉川っ子見守り隊」と書かれたグリーンのジャンパー姿も見られる。それに、防寒の備えもバッチリのお母さん方が黄色い交通安全の旗を手に「ガンバれー！」と声援を送る。薄日が差すものの冷たい風の中を元気に走る。

途中で体調が悪くなった友だちにつきそって歩く子や片方の靴が脱げたまま校門に走り込み、見守る大人から大声で「だいじょうぶー？」との問いかけに「イタイ！」と一声大きな声で答えながらゴールをめざす男の子。それぞれの最後尾には先生が伴走し、ゴール前では先に着いた仲間たちから「ガンバぁれっ！」の大合唱で迎えられる。

競技が終わって集合し、校長先生から「自分の力を出し切る姿に感動しました。」などお話があった。そして全員が西を向き、約 10 人の見守り隊、黄色い旗をもった 40 人ものお母さんに大声で「ありがとうございました！」とお礼の言葉。スピーカーからは、「よく頑張った友だちや自分に拍手を送りましょう！」の声が流れ、しばらくの間拍手がやまなかった。

サークル訪問　　トールペイント

サークルの皆さんは、月曜と木曜に当館で作品作りをされているが今年で 12 年になる。トールペイントの歴史は古く、15 世紀末にヨーロッパでブリキにペイントしたことが始まりとか。今では家具、木の小物、ガラス、陶器、布などあらゆる素材に絵をかくが、皆さんは主に白木の小物や布で、トレーや物入れなどに水性アクリル絵の具で作品をつくる。その絵の具の数がハンパじゃなく、大きな箱に２０、３０、なかには８０をこえる絵の具の容器がみえる。絵具メーカーもいろいろ。それだけ微妙な色遣い。筆も太いの、細いの、平たいの、と片手ではつかみきれないほどの多さだ。

部屋には談笑のなかにもおだやかな時が流れ、結婚式の披露宴入口に飾る「お祝い」の作品も製作中のようだ。幸せなカップルの名が見える。そういえば、昨年の改修工事で１階トイレも見違えるようになったが、入口にあるネームプレートはトールペイントの皆さんの作品。当館恒例の『であい展』にはたくさんの作品が展示され、来館者の目を楽しませている。